

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	39	大学等名	お茶の水女子大学
テーマ	テーマⅢ (入試改革)		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・新フンボルト入試の意味付けが明確であり、全学的な入試選抜・高大接続改革に向けたトライアルとしての役割が与えられている。文系では「図書館入試」、理系では「実験室入試」といった学問特性を踏まえた設計が行われており、本取組は、本大学と同規模大学の入学試験のモデルとなることが期待され、評価できる。
- ・入試改革に留まらず、入学後の教育においてもサマープログラムの拡充、他大学との包括的提携、学部教育と大学院教育の接続といった取組が進められており、新フンボルト入試を経て入学した学生の多様で質の高い学びを保証する体制が構築されつつあることは評価できる。
- ・学長を中心とした体制の整備が行われ、FD・SDの実施体制の整備、学内への周知徹底には課題が見られるが、今後の対策が検討されている。さらに、外部評価委員がプレゼミナールを視察する機会を設けていることは、大いに評価できる。
- ・新フンボルト入試を実施した2年間ともに実績をあげていること、大学として補助期間終了後の継続を明らかにしていること、経費の面についても、大学執行部が保証するということが明らかにされたことから、補助期間終了後も継続的かつ発展的な取組の実施が期待でき、評価できる。

<改善を要する点>

- ・本事業の業務は膨大であり、業務の効率化が進んでいないため、今後改善が必要である。
- ・各種取組について、PDCAサイクルが機能していると言えない。それ故に、客観的なエビデンスに基づいた自己評価が適切に行われる体制とも言えず、本事業の質的向上を推進する体制づくりについては改善が必要である。
- ・選定時に付された留意事項及びフォローアップ報告書への対応については、未対応が複数あり、早急に検討し、対応策を実施する必要がある。